

19

華道の祭典 - おおいた文化の祭典 -

開催日：平成30年10月13日(土)

開催場所：iichiko総合文化センター

出
会
い
の
場祈
り
の
谷豊
か
な
浦耕
す
里水
の
森

●実施状況

生け花の魅力を広く一般の方に伝えること、そして生け花は誰にでもできることや、花の癒やし効果を実感してもらうことなどを目的として、つなげよう・花・心をテーマに「華道の祭典」を開催しました。

第一部では、華道家元池坊の池坊専好次期家元が『伝統文化の生かし方』と題して、華道の原点や魅力などを講演しました。続いて行われた小原流の小原宏貴家元との対談では、少子化や生活様式の変化などによる課題を流派の枠を超えて共有していこうと語り合いました。

休憩中は、各流派の活動内容をDVDで紹介し、第二部の「生け花ライブ」では、1,000人もの来場者がステージに上がり、竹のオブジェに思い思いの花を挿していき、華やかな作品を完成させました。

最後に、来場者や関係者が一体となり復興支援ソング「花は咲く」を大合唱し、大会を締めくくりました。

誰もが楽しめ、これまで生け花になじみがなかった方々にもしっかりとPRできた大会となりました。

●プログラム

10:30 開演

- 第一部・記念講演「伝統文化の生かし方」
華道家元池坊 次期家元 池坊 専好
- ・特別対談「これからのいけばな」
華道家元池坊 次期家元 池坊 専好
小原流 家元 小原 宏貴
コーディネーター 可兒 敦彦

休憩 ・各流派の活動紹介

- 第二部・来場者参加型 生け花ライブ
「みんなでステージに花をいけよう！」
- ・合唱 復興支援ソング「花は咲く」

14:00 終演

演出：大分華道協会

- 華道家元池坊 小原流 草月流 専心池坊
- 華道本能寺 未生流中山文甫会 悟自然流
- いけばな一葉会 未生流 新池坊

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 大分華道協会

20

宗麟公まつり

開催日：平成30年10月13日(土)・14日(日) (ポルトガルワインフェスティバル 10月7日(日)、12日(金)~14日(日))

開催場所：大分駅府内中央口広場、若草公園



●実施状況

郷土の英傑「大友宗麟公」とその時代を、大分市民の誇りとして確立するとともに、全国に情報発信することを目的として「第6回宗麟公まつり」を開催しました。

「大友宗麟公と南蛮文化」をテーマに、戦国ステージイベントとして、豊後大友宗麟鉄砲隊の演武やおおいたっ子神楽（小池原子ども神楽・鷹匠、馬場子供神楽）、赤神諒（「大友二階崩れ」著者）トークショーなど大友氏の魅力を伝える演出を行うとともに、今回は、特別に大友宗麟公と繋がりが深いポルトガル共和国から民族歌謡「ファド」の演奏者アンドレ・ヴァス氏をお呼びし、その音楽を多くの来場者に鑑賞していただきました。

また、大友宗麟公甲冑武者行列として、武将や南蛮人に扮した行列が市内中心部を練り歩くとともに、戦国大茶会と題した大友宗麟公の時代の茶室を再現し、お点前等を披露しました。

会場内では、手裏剣体験や射的ゲーム、甲冑試着体験などの戦国体験空間を創出し、宗麟公の時代に触れる各種催しを実施しました。

若草公園会場では、日本でいち早くワインを飲んだと言われる宗麟公にちなみ、ポルトガルワインや珍しい赤ワインなどを販売するポルトガルワインフェスティバルを開催しました。

イベント期間中は外国人も含め多くの方々が来

場され、郷土の歴史を学ぶとともに体験していただくことができ、伝統と歴史文化を伝える大変良い機会となりました。

●プログラム

・戦国ステージイベント

出演者：豊後大友宗麟鉄砲隊、七色こんぺいとう、マリオネット、小池原子ども神楽、石橋 美里氏（鷹匠）、若宮八幡社、南えしょう氏、御嶽神楽、大友歴史保存会、小潮太鼓、馬場子供神楽

特別出演者：アンドレ・ヴァス氏（歌手）、赤神 諒氏（作家）

- ・大友宗麟公甲冑武者行列
- ・戦国大茶会（南蛮風黄金の茶室制作）
- ・戦国体験空間（手裏剣ゲームや射的ゲーム、甲冑体験など）
- ・戦国屋台村（大分の郷土料理販売、醸造のまち「うすき」の陣など）
- ・宗麟公のまちめぐりウォーキング
- ・ポルトガルワインフェスティバル

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 宗麟公まつり実行委員会

21

よいやかがり火

開催日：平成30年10月13日(土)

開催場所：戸次本町(帆足本家酒造蔵周辺)



●実施状況

「よいやかがり火」は、江戸時代に在町として栄えた大分市戸次（へつぎ）地区の歴史の紹介とあわせ、古くからこの地区に伝わる郷土料理の披露や食文化の祭典を行い、地域の活性化と地域資源の継承・発展に寄与することを目的に毎年開催されており、特に夜間竹ひご灯笼に灯される幻想的なかがり火が人気のイベントです。

今回は、文化祭の分野別事業として実施することから、文化祭ならではのプログラムを取り入れました。

「帆足杏雨の世界展」では、地元出身で幕末・明治に活躍した南画家、帆足杏雨の生家を今回初めて公開し、大分市美術館学芸員が杏雨の愛した調度品や作品を説明したほか、大南老人いこいの家で鑑賞交流会を行い、帆足杏雨の歴史を知っていただくきっかけ作りを行いました。

「食の祭典」では、陶芸家で大分市地域おこし協力隊の中野智佳氏が制作した皿の上に、平成29年の国際高校生選抜書展団体の部で日本一になった大分県立大分南高等学校書道部がソースとなるイカ墨で文字を書き、食ラボ大分のシェフ玉井徳裕氏が地元で採れた食材を盛り付けするパフォーマンスを行い、食と書道の異色のコラボレーショ

ンを実現することができました。

かがり火の点火式では、吉野臥龍梅太鼓とコンテンポラリーダンサーの石神ちあき氏の共演による伝統芸能と現代舞踊の新たな演出を行い、地域の郷土芸能の魅力を効果的に発信しました。

そのほか、ドキュメンタリー映画の放映や地元特産のごぼう茶のふるまい、甲冑体験など多くの特別プログラムを実施しました。

今回の文化祭での取り組みを通じて新たな発見や出会いが生まれたところであり、今後の地域のさらなる活性化や新たな人材育成が図られるものと期待しています。

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 戸次本町街づくり推進協議会

大友宗麟顕彰・全国カラオケフェスティバル

～おおいた文化の祭典～

開催日：平成30年10月14日(日)

開催場所：コンパルホール



●実施状況

豊の国大分が生んだ偉大な戦国武将大友宗麟を顕彰し、大分県の歴史と魅力を知ってもらうとともに、全国からカラオケ愛好家を募り、特にシルバー・シニア世代に活躍してもらい、老若男女の交流を図ることを目的として、カラオケ大会を開催しました。

審査対象外の部では、大分県の有志（希望者）によるカラオケ愛好家37名が日頃の練習の成果を披露しました。

また、審査対象の部には全国から66名の応募があり、決勝大会では予選を通過した36名が熱唱し、優秀者6名を表彰しました。

ゲストには津軽三味線の大御所澤田勝仁氏を招き、その芸の素晴らしさを披露しました。同じく、大分市出身の挟間玉代氏による歌謡ショーも開催し、観客を魅了しました。また、NPO法人大友氏顕彰会によるスクリーン講演会を開催し、大友宗麟の偉業を紹介しました。

●プログラム

- 11：00～ 開演 大会テーマ曲「人間大友宗麟」を披露
 11：10～ 審査対象外の部（希望者による発表）
 13：10～ 審査対象の部（シルバー・シニア）決勝大会

- 15：10～ ゲスト出演 澤田 勝仁（津軽三味線）
 ／挟間 玉代（歌謡ショー）
 16：20～ NPO法人大友氏顕彰会によるスクリーン講演会
 17：00～ 表彰式
 18：00 終演

●表彰

- 〈審査員〉
 松本 弘幸、湯浅 隆雄、吹出 征治
 〈国関係表彰〉
 文部科学大臣賞、国民文化祭実行委員会会長賞（各1名）
 〈大分県関係表彰〉
 大分県知事賞、第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞、大分県教育委員会教育長賞（各1名）
 〈その他〉
 審査員特別賞（1名）

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 NPO法人大友氏顕彰会 NPO法人原川ミュージック楽座

23

太鼓の祭典

開催日：平成30年10月14日(日)

開催場所：J:COM ホルトホール大分



出会いの場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

●実施状況

全国各地で様々な歴史や地域文化と共に育まれた「太鼓」は、躍動感あふれる鼓動で人々を魅了しています。

今大会では、全国各地の勇壮な太鼓の響演を行い、また国内のみならず台湾からも公募による太鼓チームの出演がありました。特別出演として日本を代表する太鼓チームにも出演していただきました。

公募団体として障がい者団体を含む27団体、ゲスト団体として5団体が出演し、オープニングでは大分県連合同チームによる演奏が行われました。

熱心な太鼓ファンが開場前から詰めかけ、約7時間にもわたる出演団体の演奏を心ゆくまで堪能していただきました。また、障がい者のお客様にも多数お越しいただき、音だけでなく、身体に伝わる響きを楽しんでいました。

太鼓体験コーナーでは、老若男女問わず多くの方々に大太鼓を体験していただきましたが、皆さんその迫力に驚いていました。

太鼓等の製造や販売を行っている4社の企業協力のもとエントランスに設置した太鼓展示会場では、太鼓の歴史や製造工程など工夫を凝らした展

示に多くの方が興味を示していました。

日本を代表する文化のひとつと評される日本太鼓は、全国各地で地元の愛好家が活動しています。太鼓の演奏も、お祭りからコンサートホールにおける公演まで、多彩に行われています。全国各地で活躍している太鼓チームが、一堂に会して演奏を行うことで、出演者にとっても刺激になり、来場者には、各地を代表する太鼓の演奏を一度に鑑賞できるまたとない機会を提供することができました。

●プログラム

オープニング演奏 大分県太鼓連合同チーム
主催者挨拶
第一部 15団体
第二部 17団体（内ゲスト5団体）
フィナーレ

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 公益財団法人日本太鼓財団

ホワイトシブス～夢をのせてパラダイスへの航海～ －おおいた文化の祭典－

開催日：平成30年10月14日(日)

開催場所：iichiko総合文化センター



●実施状況

「フラ」…言葉がなかった時代、ハワイの人々は、フラという踊りで祖先、神々、歴史のことを次の世代に伝えていました。美しいハワイアン音楽に合わせて踊るだけでなく、「ハワイの伝統文化のひとつ」であるフラを多くの方々に知っていただきたく、「ホワイトシブス～夢をのせてパラダイスへの航海～」と題して公演を行いました。

第1部は、海外からゲストを迎え、オリ（詠唱）を唱える儀式からスタートしました。ティリーフでレイを編み、髪にはそれぞれが育てたクブクブ（タマシダ）を飾り、神々にまつわる物語を古典フラにて披露しました。

第2部は、1920年代にサンフランシスコからハワイにむけて出航した「ホワイトシブス」の船上で歌われていた曲を生演奏で披露しました。フラをまだ経験したことがない方、県内外のフラ教室の方、そして自由にステージに上がって踊っていただくメレフラなど、多くの方々に参加していただきました。特にはじめて経験された方々は、慣れないことでもあり当初は緊張気味でしたが、次第にまとまり、笑顔が増え、各自で自主練習をするまでになりました。舞台を終えてからは「初対面の方と一つの目標に向かって作り上げていく

楽しさ、その中で友人ができ、夢のような体験ができた」との感想をいただきました。

第3部は、チェリストを迎え、印象深いステージを披露しました。観客の方からは「こんなフラのステージははじめて見ました。最初のオリ（詠唱）を聞いたとき、身震いがし、どんどん引き込まれていきました」との言葉をいただきました。

今大会の目的でもありました「新たな出会い」を楽しみに、皆で一つのことを作りあげる時間を共有することができました。さらに、舞台をつくることの難しさ、楽しさなど多くのことを学び、次回につなげたいと強く思いました。

●プログラム

13:30～	開演	第1部	「Ho'okupu」儀式、古典フラ
14:25～		第2部	「ホワイトシブス」公募にて参加したダンサーを迎えて
15:20～		第3部	「アウアナ（現代フラ）」チェリストを迎えて
16:00	終演		

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 ハーラウ・オ・プアレイヒヴァヒヴァ

25

しらしんけんチャレンジ書道展

- おおいた文化の祭典 -

開催日：平成30年10月16日(火)～21日(日)

開催場所：大分県立美術館



出会いの場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

●実施状況

大分県書写書道指導者連合会は、県内児童生徒の書写書道力の向上をめざし、大分県小中学生書道チャンピオン大会を毎年開催しています。今回は、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の開催に合わせて、対象を全国に広げ公募し、8月に「全国小中学生書道チャンピオン大会・第23回大分県小中学生書道チャンピオン大会決勝大会」を実施し、その予選を通過したチャンピオン大会決勝大会参加者の全作品1,203点、大分県内の特別支援学校からの作品81点、大会の趣旨に賛同する一般の方の作品156点の計1,440点を「しらしんけんチャレンジ書道展」として、大分県立美術館に展示しました。

小学1年生から80歳代まで、地域的には大分はもとより岡山、広島、高知、愛媛、福岡、長崎、熊本各県の作品を披露し、期間中は、幅広い層の約3,000の方にご来場いただき、書道作品の素晴らしさに触れていただきました。会場では、役員が作品について説明するとともに、8月に開催したチャンピオン大会の写真を掲示するなど「分かりやすい書道展」にも心がけたため、大会への理解を深めることができ、意義深い書道展にすることができました。

今回の書道展では、県内特別支援学校への出品依頼や、参加者を全国に広げるなど新しい取組を行いました。県内特別支援学校の作品は独創的な作品が多く、児童生徒が文字を楽しく書いている姿が作品を通してうかがえました。また、チャンピオン大会への他県参加者からは、「参加してよかった」「来年も参加したい」という声が多数聞かれました。

今回の取組をきっかけとして、来年以降も全国大会を開催していくこととしています。

●プログラム

- ・10月16日(火)～21日(日)
作品展(1階展示室A東)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 全国小中学生書道チャンピオン大会実行委員会 NPO法人大分県書写書道指導者連合会 大分合同新聞社

26

第53回豊光会展

— おおいた文化の祭典 —

開催日：平成30年10月16日(火)～21日(日)

開催場所：大分県立美術館



●実施状況

豊光会は、日展傘下の美術団体である一般社団法人東光会の大分支部として、毎年具象画の絵画作品を中心に研究と発表を行い、会員の親睦と美術の普及を図っています。

今回、絵の力で国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭を盛り上げようと第53回豊光会展を開催しました。

作品は、豊光会員20人のほか、九州管内の東光会員の日展作品8点、東光会の理事長で日本芸術院会員の佐藤哲先生（大分市出身）の絵画、さらには、東光会副理事長や日展評議員を務めた江藤哲先生（1909～91年、国東市国見町出身）のコーナーを設置するなど、大作48点を展示しました。

また、佐藤哲先生にバラの油絵の実技を含んだ講演をしていただき、文化祭事業として、これまでにない盛会な展覧会を行うことができました。

多くの来館者から「すばらしい展覧会だった」との声をいただくなど、当会の今までの歩みの上に新しい歴史を刻むことができました。

今後の制作において、豊光会員のそれぞれの思いや感動をより深く表現できるよう、研鑽していくことを確認するとともに、引き続き具象絵画の

普及を基本とした大分県美術文化の向上発展に努めます。

●プログラム

- ・10月16日(火)～21日(日) 作品展(1階展示室A西)
- ・10月20日(土) 14:00～15:30 佐藤 哲 東光会理事長(日本芸術院会員)の講演会と実演(2階研修室)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 豊光会(東光会大分支部)

27

豊後ノ國 府内薪能

開催日：平成30年10月20日(土) (「時間樹」制作過程展示：10月18日(木)～20日(土))

開催場所：大分いこいの道広場



●実施状況

流派を超えた能楽公演「豊後ノ國 府内薪能」を大分いこいの道広場にて開催し、県内外より1,000名を超えるお客様にご来場いただきました。その中には、外国人の方も数名おられました。

公演前には来場者へのおもてなしとして「お茶会」を設け、表千家悠和会の皆様のご協力のもと呈茶を実施しました。

16時30分から始まった公演では、主催者挨拶の後、まずは平和市民公園能楽堂で開講した「こども能楽教室」の受講生総勢43名が仕舞を発表しました。幼稚園児から高校生まで、皆緊張の面持ちでしたが、温かい拍手をいただき、最後は誇らしげに帰っていく姿が印象的でした。

日が沈みかける頃、火入れの儀を執り行いました。雅楽の演奏が流れる中、市内神社のご神前で頂いた清らかな火で松明が灯され、薪能にふさわしい幕開けとなりました。

演目解説からはじまり、舞囃子「高砂」、仕舞「砧」、狂言「佐渡狐」と続き、最後は能「土蜘蛛」と、松明と月明かりが照らす中、流派を超えた当代一流の能楽師による公演が次々と披露されました。

さらに今回は、通常能楽堂の鏡板に描かれる老松に代わり、能楽史上初の試みとして、日田杉を用いて立体的に作られた老松「時間樹」が舞台に設置されました。国東時間株式会社松岡勇樹氏

が制作したこの現代アート作品と伝統芸能のコラボレーションは、多くの来場者に驚きと感動を与えました。

また、「多言語字幕サービスシステム」を導入し、タブレットやスマートフォンを通じて能楽の解説配信を行ったことで、能楽初心者や国籍、障がいの有無に関わらず、能楽を分かりやすく鑑賞していただくことができました。

本事業を通して、多くの方々に能楽の素晴らしさを再発見していただくきっかけとなりました。

●プログラム

- 1 主催者挨拶
- 2 「こども能楽教室」発表会
- 3 火入れの儀
- 4 演目解説 観世流シテ方能楽師 馬野 正基
- 5 舞囃子「高砂」喜多流シテ方能楽師 塩津 哲生
- 6 仕舞「砧」観世流シテ方能楽師 谷村 育子
- 7 狂言「佐渡狐」和泉流狂言師 野村 萬斎
- 8 能「土蜘蛛」二十六世観世宗家 観世 清和

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 豊後ノ國 府内薪能実行委員会

28

おおいた夢色音楽祭2018

開催日：平成30年10月20日(土)・21日(日)

開催場所：大分市中心市街地各所



●実施状況

「おおいた夢色音楽祭」は、大分市が日本における西洋音楽発祥の地であることに因み、年間を通して音楽が溢れ、道行く人が心むよむような「音楽のまち大分」の実現を目的とした「おおいた夢色音楽プロジェクト」の一環として、平成20年から実施しています。

開催11回目となる今回は、文化祭分野別事業として「つなげよう!大分から世界へ音楽の輪を♪」をテーマに、スケールアップをして開催しました。

メインとなる「みゅーじふる・たうん」では、市内中心市街の商店街などに、2日間で延べ34ヶ所のストリートステージを設置し、全国各地から集まった約200組900人以上のミュージシャンが、ジャズ、ロック、フォーク、クラシックなど様々なジャンルの演奏を繰り広げました。

20日の夜には、全国各地の応募者の中から予選を通過した12組のミュージシャンが、グランプリの座をかけオリジナルソングで熱い演奏を披露する「夢色ミュージックコンテスト2018」を開催しました。また本音楽祭のフィナーレを飾る21日の「ファイナルナイト・ジャム」では、大分市と姉妹・友好都市である中国武漢市、アメリカオースチン市のミュージシャンの演奏や、井上苑子氏による

スペシャルライブを実施しました。

さらに、両日とも文化祭の特別イベントとして、JR大分駅府内中央口広場において世界各国のミュージシャンが一堂に会する「ワールドミュージックステージ」を開催しました。世界で活躍する津軽三味線奏者の大野敬正氏とアフリカ太鼓・アフリカダンスの異色セッションなど、普段触れることの少ない国際色豊かな民族楽器が奏でられ、特別な音楽空間を創出しました。

文化祭を通して、出演者や幅広い年代の観覧者、スタッフまでが一体となって音楽を楽しみ、音楽を通して様々な交流が行われ、「音楽のまち大分」を全国へPRする素晴らしい機会となりました。

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 おおいた夢色音楽祭実行委員会

29

押し花コンテスト - おおいた文化の祭典 -

開催日：平成30年10月20日(土)・21日(日)

開催場所：J:COM ホルトホール大分



●実施状況

国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭「おおいた文化の祭典」事業として「押し花コンテスト」を開催し、全国から78点の作品が集まりました。

コンテストは厳正な審査の結果、文部科学大臣賞をはじめ、国民文化祭実行委員会会長賞、大分県知事賞等19点の受賞作品を選出しました。文部科学大臣賞を受賞した奈須恵美さん(大分県)の「凜と」は、難しいアオイの花がきれいに押し花として押され、美しい花が凜と咲いている様子が表現されています。

期間中は、花や葉を用いて風景などを繊細に表現した各作品を展示し、会場を訪れた多くの方が興味深く鑑賞していました。また、押し花ではがきを作る無料体験コーナーも設置し、押し花の普及と魅力を伝えました。

今回の開催を通して、多くの来場者に押し花の美しさや表現、植物に対する愛情などを知っていただくきっかけになりました。

●プログラム

・10月20日(土)・21日(日) 10:00~17:00
作品展示 (J:COM ホルトホール大分 1階エントランスホール)

・10月20日(土) 14:00~

表彰式 (J:COM ホルトホール大分 1階エントランスホール)

●表彰

〈審査員〉

前村 晃(佐賀大学名誉教授)、豊増 康生(ワールド・プレスフラワー協会会長)、山中 崇子(同協会名誉理事)、江崎 朋恵(同協会運営理事)、吉村 一美(同協会運営理事)

〈国関係表彰〉

文部科学大臣賞、国民文化祭実行委員会会長賞(各1名)
〈大分県関係表彰〉

大分県知事賞、第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞、大分県教育委員会教育長賞(各1名)

〈その他〉

大分市長賞、特別賞、敢闘賞、入賞など(14名)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 ワールド・プレスフラワー協会

30

誰でも楽しめる映画館

開催日：①平成30年10月21日(日)、②11月17日(土)・18日(日)

開催場所：①T・ジョイパークプレイス大分 ②TOHOシネマズアミュプラザおおいた



●実施状況

障がいのある方々に劇場での芸術鑑賞の楽しさを知ってもらうため、映画館の1スクリーンを貸し切り、様々な障がい特性に配慮した映画鑑賞体験イベント「誰でも楽しめる映画館」を開催しました。

このイベントでは、手話通訳や要約筆記をはじめ、音声ガイドや日本語字幕など、視覚や聴覚に障がいがある方々が楽しめるだけでなく、暗い場所が不安な方のために館内照明を明るめに、大きな音が苦手な方のために音量を小さめに設定し、更には看護師やボランティアスタッフを会場内に配置することにより、様々な障がい者に安心して楽しんでいただけるよう配慮を行いました。

上映作品は、子供向けのアニメをはじめ、2018年公開の最新作など、多くの方々に楽しんでいただけるものを3作品準備したところ、10月21日、11月17日、18日の計3日間で478名にご来場いただきました。

鑑賞者からは、「発達障がいがある子どもの映画デビューをいつにするか考えていた。初めての映画を体験させることができ良かった」、「障がいのある子どもが動き回ったり大声を出しても注意されないで、親としては気兼ねなく映画を鑑賞することができた」等の感想をいただきました。

今回の上映会では、少しの配慮と周囲の理解により、障がいのある人とない人が一緒に映画を楽しむことができ、今後の障がいのある方々の劇場鑑賞支援のあり方を考える機会となりました。

●プログラム

- 1 作品名 「映画ドラえもん のび太の宝島」
日 時 10月21日(日) 11:00～、14:00～
場 所 T・ジョイパークプレイス大分
- 2 作品名 「旅猫リポート」
日 時 11月17日(土) 14:00～
場 所 TOHOシネマズアミュプラザおおいた
- 3 作品名 「走れ!T校バスケット部」
日 時 11月18日(日) 14:00～
場 所 TOHOシネマズアミュプラザおおいた

●鑑賞サポート

- 1 車いす席、情報保障席の設置
- 2 手話通訳・要約筆記の配置
- 3 音声ガイド・日本語字幕付き映画(UD Cast対応)
- 4 館内の照明を明るめに設定
- 5 館内の音量を小さめに設定
- 6 看護師、ボランティアスタッフの配置

●主催者

厚生労働省 文化庁 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

31

お茶の祭典（芸術文化ゾーン事業）

開催日：平成30年10月21日(日)・11月11日(日)・17日(土)

開催場所：iichiko総合文化センター



●実施状況

今回の文化祭のテーマ「おおいた大茶会」を体現するように、子どもからお年寄りまで、障がいのある方もない方も誰もが参加し楽しんでもらえる無料のお茶会を開催しました。県内3団体による日替わりで、それぞれに趣向を凝らして来場者をもてなしました。

10月21日は、表千家同門会大分県支部が担当しました。日頃はお茶の世界に縁のない方々にもその魅力を知っていただけるよう体験コーナーを設けました。立礼式の茶席では、子どもからご年配の方まで幅広い年齢層の方々が多数来場し、赤い毛せんを敷いたいす席で、笑顔で一服のお茶を楽しんでいただきました。800人も多くの来場者をおもてなしするとともに、お茶の魅力を広く伝えることができました。

11月11日は、裏千家淡交会大分支部が担当しました。会場には3畳の茶席を設え、時間を区切って来場者にゆっくりお茶を楽しんでいただきました。また、亭主がお点前の動きの意味を説明し、お道具を拝見する時間も設けました。お茶を飲むだけでなく、お茶を知るとともにより深く味わっていただきたいという目的でしたが、来場者からは貴重な体験ができたという好評でした。

11月17日は、日本茶インストラクター協会大分県支部が担当しました。美味しいお茶淹れ教室

では、茶葉の種類やお湯の温度、蒸らす時間を少し変えることでお茶の味わいが大きく変わっていくことに参加者からは驚きの声があがっていました。また、パネル展示では、お茶の成分が持つ健康機能やお茶の歴史について紹介し、来場者は興味深く観覧していました。

全期間を通じて、来場者が定員を超えるなど、多くの方にお茶を楽しんでいただくことができました。

●プログラム

■10月21日(日)

- ・表千家同門会大分県支部
呈茶、お茶点て体験

■11月11日(日)

- ・茶道裏千家淡交会大分支部
呈茶、お茶点て体験

■11月17日(土)

- ・日本茶インストラクター協会大分県支部
美味しいお茶淹れ教室、お茶を学ぶパネル展示

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 表千家同門会大分県支部 一般社団法人茶道裏千家淡交会大分支部

32

全国吟詠剣詩舞道祭

開催日：平成30年10月21日(日)

開催場所：J:COM ホルトホール大分



●実施状況

日本の伝統芸術である吟詠・剣舞・詩舞の向上振興と、日本文化の高揚への寄与を目的とし、この大分の地で、時世の感覚に合うような魅力のある芸術性の高い舞台を披露することで、伝統芸術の素晴らしさを広めることを趣旨として、「全国吟詠剣詩舞道祭」を実施しました。

当日は全国から来県した吟剣詩舞道家会員による舞台発表のほか、青少年吟詠家の全国大会優勝者で構成されたスーパーチームによる発表、イギリス、フランス、ポーランドから招いた外国人による吟詠・剣舞の披露、尺八演奏家の河野正明氏による客席での演奏および少壮吟士の伴奏など、多彩なゲストが次々と華やかな舞台を繰り広げました。

また、大分県出身の広瀬淡窓の漢詩や大分を題材とした詩吟の披露はもちろん、和と洋のコラボレーションによる「シンデレラ」をテーマにした企画構成番組や、作曲家、瀧廉太郎の数少ない自作詩「古城」を総勢80名の大合吟で詠いあげるフィナーレなど、ユニークな企画も多数披露されました。

会場には出演者・観客あわせ約1,300人もの吟詠剣詩愛好家が集い、大いに盛り上がりました。

これまでの吟剣詩舞道祭と比較して、新たな趣を積極的に取り入れるとともに、次代を担う若者の活躍の場を広げたことにより、今後の吟剣詩舞のさらなる発展に向けた方向性を見い出すことができたものと考えています。

●プログラム

開会セレモニー

プロローグ・オープニングアクト「兜」等

第一部 幼少年による吟剣詩舞の部

第二部 合吟の部

主催者挨拶

第三部 スーパーチームの部

第四部 外国人吟詠・剣舞の部

第五部 尺八の世界「鹿の遠音」少壮吟士吟詠の部

第六部 企画構成吟番組「親華麗姫」～シンデレラ

第七部 大合吟「古城」

閉会セレモニー

●主催者

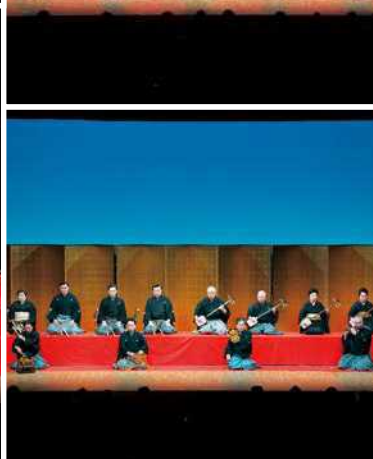
文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 公益財団法人日本吟剣詩舞振興会 財団公認大分県吟剣詩舞道総連盟

33

長唄・三味線演奏会

開催日：平成30年10月21日(日)

開催場所：iichiko総合文化センター



出会いの場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

●実施状況

日本の伝統芸能「歌舞伎音楽」に代表される長唄・三味線の継承と普及発展を図るため、「未来へつむぐ～日本の伝統芸能への誘い～長唄・三味線演奏会」と題して開催しました。

開催当日は素晴らしい好天に恵まれ、開場前には多くのお客様が列をなす盛況ぶりでした。

演奏会の内容としては、大分県長唄連盟会員と東京から招聘した一流演奏家との共演に加え、未来への継承の観点から、立命館アジア太平洋大学(APU)長唄三味線サークルと大分県立芸術文化短期大学パーカッショングループ・ミレニアムのコラボレーション企画を実施しました。APUの海外留学生が三味線を弾き、芸短大の日本人学生がパーカッションを奏するという趣向に、会場のお客様から大きな拍手喝さいが起こりました。

フィナーレは、一流演奏家と大分県長唄連盟各社中の代表者が、全国的にも有名な大分市の高崎山の猿に因んだ長唄の名曲「靱猿」を演奏しました。観客の皆様には、本物志向の演奏を通じて、長唄・三味線の醍醐味を十分に堪能していただけたのではないかと思います。

大分ではなかなか開催される機会の少ない大規模な長唄・三味線の演奏会でしたが、来場いただ

いた観客の方々から暖かいご声援をいただき、大分県長唄連盟はじめ、出演した各団体にとっても大きな自信と励みにつながった演奏会となりました。

●プログラム

第一部 オープニング 「元禄風花見踊り」
(大分県長唄連盟会員一同)

長唄の名曲 「小鍛冶」「花」「藤娘」

特別バージョン 日本の名歌(6曲)

立命館アジア太平洋大学(APU)長唄三味線サークル

大分県立芸術文化短期大学パーカッショングループ

第二部 長唄の名曲 「蜘蛛拍子舞」「娘七種」
「勧進帳」

第三部 フィナーレ 「靱猿」

長唄の醍醐味

(一流演奏家と大分県長唄連盟各社中代表者)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 大分県長唄連盟

34

洋舞踊の祭典（芸術文化ゾーン事業）

開催日：平成30年10月21日(日)

開催場所：iichiko総合文化センター



●実施状況

全国から洋舞踊愛好家が集い、優雅で独創性豊かな舞台や、20年前の「第13回国民文化祭・おおいた98」を機に結成されたおおいた洋舞連盟加盟団体による合同作品を、1,500人の観客の前に披露しました。

第一部は、大分県作品として、大分市出身の穴井豪氏が演出・振付を手掛けたコンテンポラリーダンス「決してやむことのない風の話をしながらか」を上演しました。繊細なストーリーと洗練された群舞に観客は魅了されていました。

第二部では、公募による全国6団体の作品を披露しました。モダンダンス、ジャズダンス、タップダンス、ストリートダンス、クラシックバレエと多様なダンスが集まり、そのどれもが見応えのある作品でした。参加者も子どもから大人まで幅広い年代にわたっており、洋舞踊の多様性をあらわすことができました。

第三部は、大分県作品としてクラシックバレエ「花園」を上演しました。第13回国民文化祭・おおいた98「バレエの祭典」で演出を担当された江川明氏の長女である江川マヤ氏が演出・振付を手掛けており、大分県洋舞踊界の20年の歩みと未来への希望を込めた作品となりました。終盤には客席から手拍子もおこり、舞台と観客が一体化した素晴らしい舞台となりました。

大分県作品のコンテンポラリーダンスとクラシックバレエは、それぞれ全国で活躍されている著名な指導者から、1年近い練習期間を設けて指導をいただきました。非常に貴重な体験となり、今後の大分県洋舞踊界を担う人材の育成に大きく寄与したと思います。

●プログラム

第一部 「決してやむことのない風の話をしながらか」(大分県)

演出・振付・構成 穴井 豪

ゲスト出演 金田 あゆ子

第二部 ようこそ大分へ

・「水麗舞」

マスダモダンバレエアート（宮崎県）

・「Be Reborn」

Patio Jazz Dance（愛知県）

・「和歌山の唄をタップダンスで奏でる」

スタジオぽこ・あ・ぽこ（和歌山県）

・「BRED Crew」

Dance School BRED（広島県）

・「Pas de Quatre」

流山市文化協会 洋舞部（千葉県）

・「また、還る場所。」

～ここから始まり、そしてまた、ここにいる。～

平田みのりモダンダンススタジオ（福岡県）

第三部 「花園」(大分県)

演出・振付・構成 江川 マヤ

ゲスト出演 芳賀 望

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 公益社団法人日本バレエ協会 一般社団法人現代舞踊協会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 おおいた2018洋舞踊の祭典実行委員会

35

1人ひとりのもつ可能性を活かす仕組みを 考えるアート展Action!

開催日：平成30年10月26日(金)～11月4日(日)

開催場所：大分県立美術館



出会の場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

●実施状況

この展覧会は、障がい者アートを支援する方々の取組や当事者の思いを紹介し、様々な課題や今後のビジョンを来場者と一緒に考え、障がいの有無を超え、1人ひとりの可能性を活かした社会を豊かにする活動=Actionが生まれてくることを期待して開催しました。

期間中は、障がい者と様々な方が協働するプロジェクトを多数成功させてきたSLOW LABELのディレクター・栗栖良依氏や、誰もが安心できる居場所づくりと表現活動を支援する認定NPO法人クリエイティブサポートレッツの理事長・久保田翠氏を招いた講演会をはじめ、障がいのある方々とともにダンスステージを創る振付家・ダンサーの北村成美氏による身体表現を通じたコミュニケーションを体験するワークショップ、障がい者のアート活動の様子を撮影した映画の上映など、様々な関連イベントを実施しました。

また、これからの福祉を担う若い世代が、アートを活用した障がい者の支援について学ぶ機会を提供するため、大分県内で福祉を専攻する学生・生徒約600名を招待し、ガイドによる展示の説明やワークショップを実施しました。

今回の展覧会を通じて、多くの方々が障がい者アートの可能性や魅力、その支援の方法や関係者の思いなどに触れることができました。

●実施イベント

10月26日(金) 14:00～15:30

栗栖良依講演会～多様な人々が協働して生まれる新たな価値～

10月28日(日) 14:00～15:30

クリエイティブサポートレッツの活動～ソーシャルインクルージョンを目指して～

10月28日(日) 16:00～17:00

“福祉×アート”を体験するダンスワークショップ

11月3日(土・祝) 終日

障がい者福祉施設等を舞台にしたアート活動に関するドキュメンタリー映画の上映

●紹介団体 (50音順)

Unlimited、しょうぶ学園、SLOW LABEL
陶器・ガラス工房 ラパロマ、日本財団、
認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ、
平川病院〈造形教室〉、森田 かずよ、やまなみ工房

●招待学校 (50音順)

大分南高等学校、大分大学、大分東明高等学校、
佐伯豊南高等学校、智泉福祉製菓専門学校、
別府大学、別府溝部学園短期大学(計605名)

●主催者

厚生労働省 文化庁 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

36

グッドジョブ展

開催日：平成30年10月26日(金)～11月4日(日)

開催場所：大分県立美術館



●実施状況

障がいのある人の表現や創造性が生み出す魅力的な商品や、障がいのある人とない人の協働による仕事や働き方を紹介し、障がいのある方々の社会参加へとつながる新たな取組の促進を目的に開催しました。

今回の展示では、アートやビジネスなど福祉の領域を超えて、新たな仕事や働き方の仕組づくり等を全国から公募し、表彰する「Good Job! Award 2017」の入選8団体の取組や商品を展示しました。

展示期間中は5,000人を超える来場者があり、多くの方々にとって、障がい者のアート作品を活かした商品の魅力と、障がい者とともに働く社会について考える機会となりました。

●展示内容 50音順 ()は実施団体

- ・umi tote (NPO法人 萌友-for you/兵庫県)
暮らしのそばにある海をテーマにデザインしたトートバッグを施設で完結できる手法で製作した商品。
- ・さっくらProject (株式会社 幸呼来Japan/岩手県)
伝統的な裂き織技術を継承し、余り布を織生

地として製作した商品。

- ・自然栽培パーティ (一般社団法人 農福連携自然栽培パーティ全国協議会/愛媛県)
様々な多重課題を、障がいのある人が核となって楽しく解決していく取組。
- ・大学と企業の連携による就労支援 (株式会社ベネッセビジネスメイト+明星大学/東京都)
社会就労が難しい発達障がいのある学生をフォローし、働く機会を提供する取組。
- ・乳酸発酵OYATSU (NAOKO × COBO × かすたねっと/神奈川県・東京都)
福祉施設で作られた自然発酵乳酸菌を使用した商品。
- ・NOZOMI PAPER (NOZOMI PAPER Factory × HUMORABO/宮城県・東京都)
手づくりの風合いを生かした手漉きの商品。
- ・マニユモバイルズ (Manu Mobiles/愛知県)
紙と糸でつくられる職人的技術を要する作業を4つの福祉施設と連携して製作した商品。
- ・リンクマーケット・イッチャン(NPO rawside/韓国)
障がいのある人の表現活動と、そこで形成されるコミュニティを持続して拡散する取組。

●主催者

厚生労働省 文化庁 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

37

世界の大茶会（芸術文化ゾーン連携事業）

開催日：平成30年10月27日(土)・28日(日)

開催場所：Iichiko総合文化センター1階アトリウムプラザ



●実施状況

文化祭の大会テーマ「おおいた大茶会」の国際版として、世界のお茶・スイーツと喫茶文化を紹介する「世界の大茶会」を開催しました。10ヶ国・地域に関わる県内の国際交流団体や留学生団体、おおいた国際交流プラザの外国人ボランティア、県所属の国際交流員が、それぞれ特産のお茶・コーヒー、クッキー等のスイーツを出展・販売しました。特にJICAデスク大分の協力店はフランスの焼き菓子、地元竹町商店街の南米料理店はボリビアのバナナパイを出展し、来場者は本場の味を堪能しました。また、日中交流団体が中国茶のお点前を来場者に披露しました。チャイナドレスの試着体験もあって、中国ブースには両日ともに多くの来場者が訪れ、束の間の異国情緒が溢れました。

会場には、本祭り参加県民の他、ブース出展国・地域の在住外国人も多数来場し、出身国の話に盛り上がるシーンがあちこちで見られました。また、並行開催の県立美術館「海と宙の未来展」の来館者・Iichikoグランシアター「アイーダ」の観客も多数来場し、スペシャルイベントの相乗効果となりました。

●参加国・地域の出展団体等

- ①中国…大分中文学園
- ②台湾…九州中国人留学生学友会・大分大学&溝部学園
- ③香港…大分華僑華人会
- ④ベトナム…日本ベトナム友好協会大分県支部
- ⑤フィリピン…大分フィリピン友好協会
- ⑥モンゴル…大分バヤンホンゴル交流協会
- ⑦フランス…JICAデスク大分協力店
- ⑧ボリビア…竹町商店街南米料理店
- ⑨韓国…おおいた国際交流プラザ韓国人ボランティア
- ⑩イギリス…大分県国際交流員

●主催者

おおいた国際交流プラザ

38

大分ダンスフェスティバル

- おおいた文化の祭典 -

開催日：平成30年10月28日(日)

開催場所：iichiko総合文化センター



●実施状況

国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭「おおいた文化の祭典」事業として「大分ダンスフェスティバル」をクラシックバレエ、ベリーダンス、コンテンポラリー、ジャズダンスの分野に、個人を含め9団体約60人の参加のもと開催しました。

子どもたちがかわいらしく踊るバレエや、力強く華麗に舞うコンテンポラリー、ノリノリのリズムで元気いっぱいのベリーダンスなど、バラエティーに富んだ演目で観客を魅了しました。

参加者や指導者には、素敵な仲間に出会えた喜びとともに、皆で舞台を創り上げていく達成感や次への課題と目標などを感じていただきました。来場者からは、「子どもから年配の方まで、素敵に踊る姿に胸を打たれ元気もらった。」「出演者の練習の成果が発揮されていた。このような発表の場があることは素晴らしい。」との感想をいただくなど、身体表現の素晴らしさ、体を動かすことの楽しさや喜びなどを感じていただきました。

今回、様々なジャンルの方々に参加いただきましたが、各団体や個人が持つそれぞれの個性が一つになることで、大分のダンス文化盛り上げの一端となる素晴らしい大会にすることができました。今後ともダンス文化の普及と発展に努めていきます。

●プログラム

14:00～ 開演

【出演団体・個人】

CoCo Gold

FAVORITE ROOM

much color belly

shionars candy4

コンパリーゼ

ちだバレエスクール

愛媛バレエアカデミー

ゴールドバレエアカデミー

秋月 淳司

【ゲスト出演】

河島 真之、杉山 優一、松岡 海人

16:30 終演

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 ゴールドバレエアカデミー